

市民の生活パターンと行動圏

かつて横浜の都心といえは関内・伊勢佐木町地区だけであった。しかし、横浜駅周辺の勃興と「みなとみらい21地区」の整備によって臨海都心部が広域化・一体化され、新たな都心として生まれ変わる一方、新横浜が新都心として、港北ニュータウン、鶴見、上大岡、二俣川・鶴ヶ峰・戸塚が副都心として形成されてきている。それに伴い、市民の生活行動の場も市内で充足するようになり、また地域の多方面に及ぶようになってきている。現在の横浜は、実に多様で幅広い生活の舞台となりつつある。

ここでは、市民生活行動調査にもとづき、通勤や、買い物、生涯学習、余暇など、市民のさまざまな分野にわたる生活行動パターンと行動圏をスケッチしてみよう。



市民の生活行動圏

通勤や買い物・余暇の市内充足率の高さ

生活の各分野で市民がどこで活動しているかを市民生活行動調査によって見ると、全体に市民の生活行動の市内充足率は高いことがわかる。

通勤では自宅勤務者を除く就業者の52%、学習・能力開発（自宅での活動を含む）、買い物、余暇活動ではそれぞれの参加者の70%～90%がそれぞれの活動を市内で行っている。自宅勤務者を除く就業者の41%が市外へ通勤している（うち、

東京都内への通勤者が27・5%）ことを除けば、余暇や生涯学習など非日常的な分野を含め、市民の生活行動の大きな部分は市内で行われているといえる。

多極化する市民の市内エリア利用

市内での市民の行動圏は、都心、副都心、それ以外の市内と、どの分野でも利用エリアが分散する傾向が見られる。

いずれの分野も、都心、副都心以外の市内エリアの利用が最も多く、特に食品・耐久財の買い物では40～60%が比較的身近な生活圏で営まれている。

その一方で、都心部は衣料・服飾品の買い物で40%、何らかの余暇活動で21%が利用する。また、余暇活動では、家族・友人との飲食・おしゃべり、ウインドウショッピング、コンサート、映画、美術展といった参加率の高い分野で、各参加者の36～45%程度が都心・中心部を利用するなど、みなとみらい21や横浜駅周辺などの都心・中心部における都市型余暇機能の受け皿の大きさがうかがわれる。

また、副都心の利用では、通勤・生涯学習でそれぞれ9%程度、食品・耐久財の買い物で22～23%、衣料品などで16%、

余暇活動で12%程度と、多様な生活拠点機能が集積しつつあることがうかがえる。

横浜市民の生活パターン

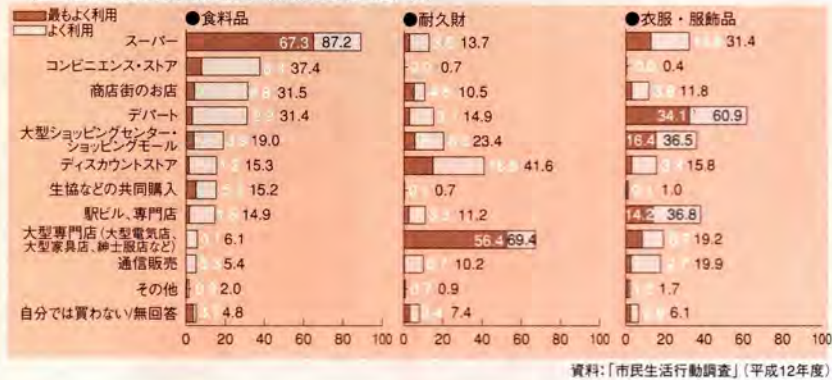
各分野の市民の生活パターンをもう少し具体的に見てみよう。

仕事・通勤

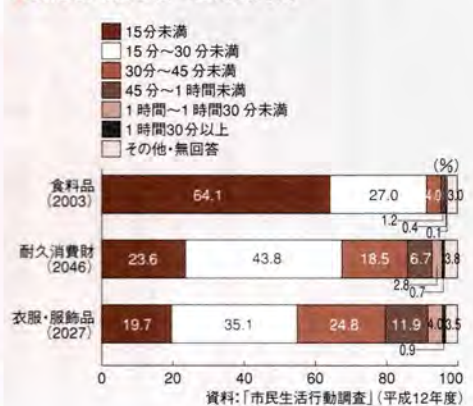
●勤務地

自宅勤務者を除く市民の勤務地は、横浜市内が52%、東京都内27・5%となっている。市内では、横浜中心部12・8%、新横浜都心・副都心があわ

●市民がよく買い物をする店・最もよく買う店
(回答者は自分で買い物に行く(無回答者を含む)人)



●最もよく買う店への所要時間



せて11・2%と、市内での市民の動きは通勤においても多極化していることがわかる。

●通勤手段・所要時間

通勤の所要時間と交通手段を見ると、市中心部に通勤する人は15分~1時間以内が大半である。また、新横浜都心・副都心、その他の市内では30分未満が5割以上で、このエリアへは徒歩や自転車での通勤者も多く、近距離の通勤者が目立つ。市外の神奈川県内への通勤者は45分~1時間30分が5割以上、また、東京都内通勤者は1時間以上が約8割と長時間通勤が多い。

通勤手段の主流は電車・シーサイドラインの利用で、56・5%に及ぶ。このうち路線バスを併用する市民は37・4%と、通勤では電車とバスの併用が最も多い移動手段となっている。

一方、クルマ(自分で運転)での通勤も16・2%に達する。クルマ利用者は、特に新横浜都心・副都心、その他の市内への通勤ではそれぞれ4人に1人、市外・県内は3人に1人以上に及ぶ。副都心・その他市内、県内はバス通勤も2~3割見られる。東京都内は電車が9割以上、横浜の中心部へは電車かバスが多い。

●買い物・ショッピング

次に、買い物・ショッピングについて市民の行動圏や商業施設などの都市資源

の利用状況を見てみよう。

●食料品の購入店舗

食料品は大半がスーパーで購入されているが、年代や生活スタイルに合わせた利用店舗の多様化がうかがえる。

若年・中年単身層、親と同居単身層ではコンビニエンスストアの利用が多く、若年層や一人暮らしにコンビニが深く浸透していることが改めてわかる。

また市民の31・4%が、総菜や高級食材など質の高い品揃えが豊富なデパートをよく利用しており、商店街を利用する人とほぼ同じ比率に達している。デパートは、特に高単身層や若年・中年・高年の夫婦2人暮らしなど、子どものいない市民で35~41%とよく利用されている。

大型ショッピングセンター、モールをよく利用する市民は19%に及び、クルマを利用した郊外型のショッピングが市民に普及していることがうかがえる。また、生協などの共同購入も15・2%に達しており、特に子どものいる夫婦で利用が活発で、食品の安全性などにこだわる市民の存在が注目される。

●耐久財の購入店舗

家電や家具など耐久財の購入では、大型電気店・家具店などの大型専門店(よく使う)69・3%、ディスカウントストア(同41・6%)、ショッピングセンター・モール(同23・

4%)の3つの店舗形態の利用が大半を占めている。

若年単身層や若年夫婦、中学生までの子どもがいる夫婦などの若い層、中年単身層ではディスカウントストアの利用が活発である。また、若年単身層、中年夫婦、中学生以下の子どものいる夫婦では大型ショッピングセンター・モールの利用も目立つ。

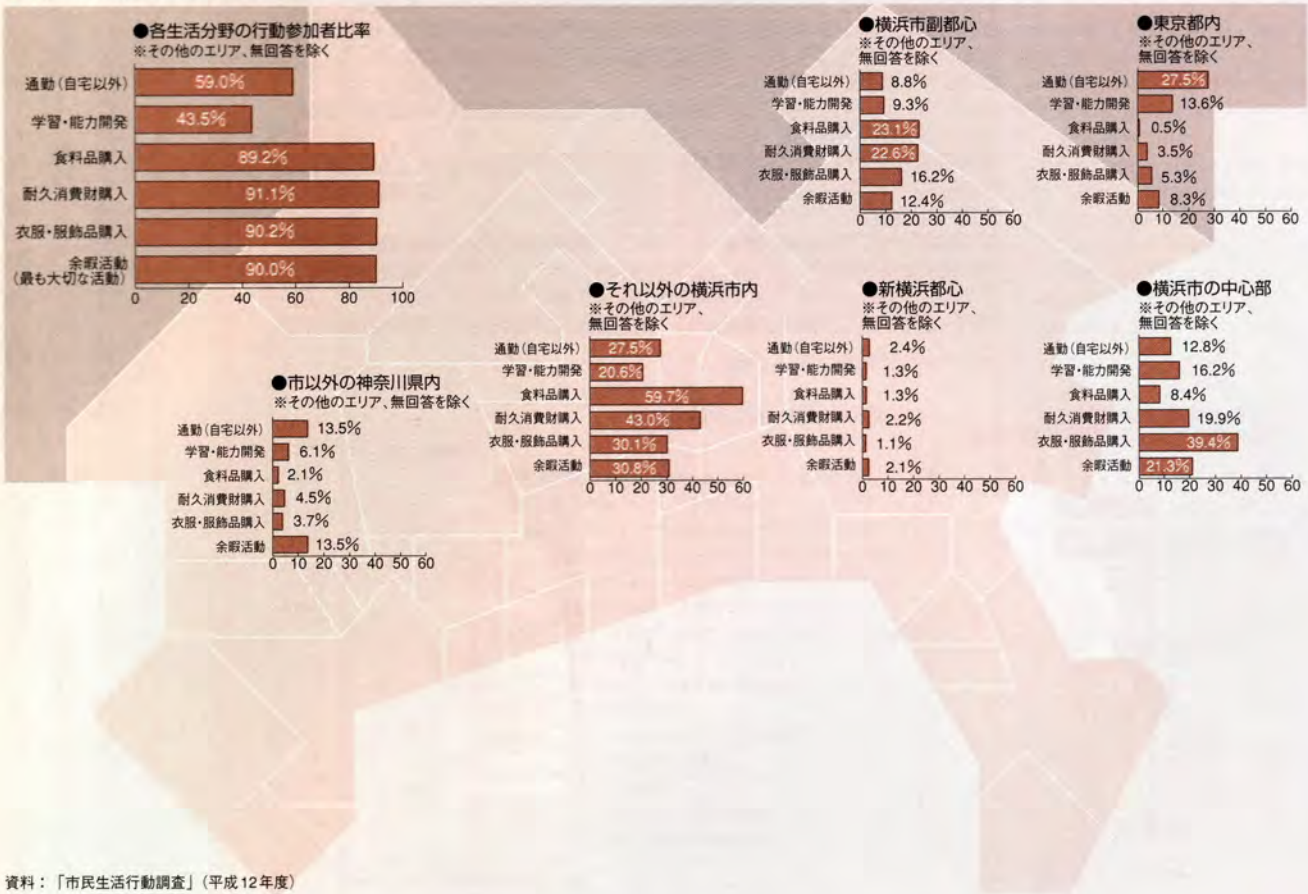
●衣服・服飾品の購入店舗

衣服・服飾品の購入では、デパートの利用が最も多く(60・9%)、ついで駅ビル・専門店、大型ショッピングセンター・モール、スーパーがそれぞれ30数%を占める一方、通信販売の利用が約20%におよび、紳士服店などの大型専門店の利用とほぼ同じ比率に達していることが注目される。

ライフステージ別では、親と同居単身層、若年単身層や若年夫婦など若い層でデパート、駅ビル・専門店、ショッピングセンター・モールがいずれも高く、衣服・服飾品の買い回りを活発に行う生活のゆとりが感じられる。

子どものいる夫婦では、デパートのほか、ショッピングセンター、モールの比率が高く、クルマを利用したショッピングが多い一方、スーパーで済ませる比率も高い。また、中学生までの子どもがいる夫婦では通信販売の利用が3~4割に及んでいる。

●生活分野別にみる市民の行動圏



資料：「市民生活行動調査」(平成12年度)

●買い物・ショッピングの所要時間・交通手段

買い物の所要時間は、食料品では64・1%、3人に2人が15分未満の身近な店舗で買っており、9割以上の市民が30分圏内で買っている。一方で、デパートで最もよく食料品を買っている市民では30分以上の人も26・2%に及ぶ。

耐久財では67・4%、3人に2人以上が30分圏内で買っており、比較的身近なエリアでの利用が多い。衣服・服飾品でも、54・8%と過半数が30分圏内で購入しているが、24・8%と4人に1人は30〜45分をかけ、6人に1人以上(16・8%)は45分以上かけて買いに出かけている。

購入時の利用交通手段では、食料品はクルマ利用(36・6%)か徒歩のみ(30・4%)、耐久財はクルマ利用が半数を超え(51・2%)、衣服・服飾品は鉄道利用(39・8%)とクルマ利用(32・4%)が中心となる。

●余暇・生涯学習

●余暇・遊び活動

市民がよく行っている余暇・遊び活動で特に参加率が高いのは、ウインドウショッピングや映画館、美術館、コンサートなどの都市型余暇、家族や友人との飲食・おしゃべり、散歩やジョギング、スポーツ、自然の中でのハイキングやアウトドア・スポーツなどである。

この中で、市民が特に「大切に行っている」活動では、ウインドウショッピングや映画館をはじめとする都市型余暇の比率が下がり、家族や友人との飲食・おしゃべりや、散歩・ジョギング、スポーツ、自然の中でのアウトドア活動など、人とコミュニケーションや健康増進、自然と親しむ活動にウェイトが置かれていることがわかる。

ウインドウショッピングは、特に若年層の参加率が高く、単身層はもとより、若年夫婦、また学齢以下の子どもを持つ夫婦の参加も67・1%に及ぶ。また、家族や友人との飲食・おしゃべりは、親と同居単身層と若年夫婦が特に活発で、この2つの層ではこれを特に大切な活動であるとする比率も高い。

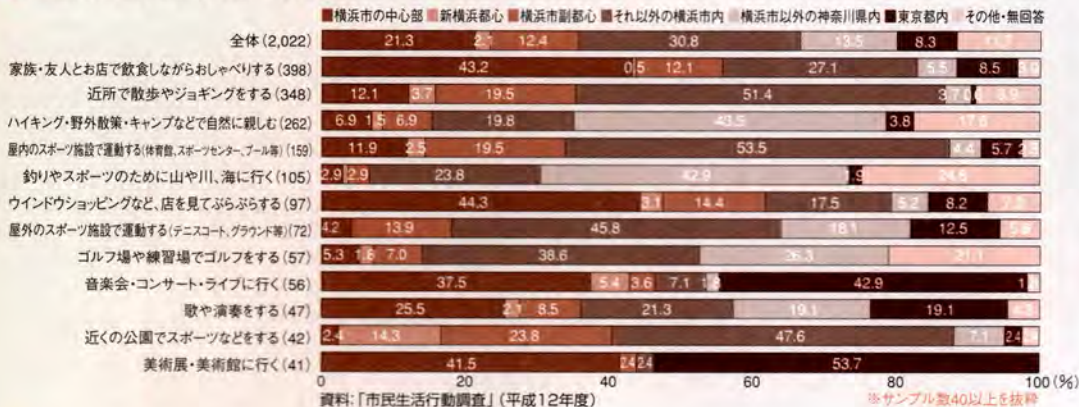
散歩やジョギング、ハイキングやキャンプなど自然と親しむ活動は中高年層で活発である。一方、釣りなど自然の中でアウトドアスポーツは、若年単身層や若年夫婦層など若い層の活動が盛んであることが注目される。

映画館の利用は若年単身層や若年夫婦の参加率が高く、美術館は中高年の利用が多い。またコンサートは若年層と中高年層が高く、子育て期の夫婦で低くなる。

●余暇活動を行う場所

余暇活動を行う場所は、活動分野により異なるが、飲食・おしゃべりやウインドウショッピング

●特に大切にしている趣味・余暇活動

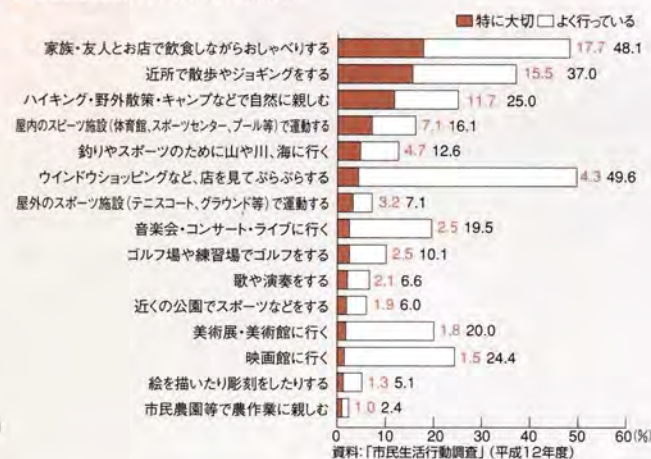


グ、コンサートなど都市型余暇は横浜市の中心部がよく利用される。ただ、コンサートは公演数が多く種類も豊富な東京都内が最も高く、42・9%を占めている。

●行っている学習活動の内容／最も力を入れている学習活動(全体)



●市民の趣味・余暇活動の内容



また、散歩やジョギング、屋内や公園でのスポーツ活動は中心部や副都心以外の市内、多くは身近な生活圏でよく行われ、副都心の利用も多い。ハイキングやキャ

ンブ、釣りなどのアウトドアスポーツでは横浜市外の神奈川県内で行われる比率が高い。活動の場所では、若年単身層で横浜の中心部と東京都内の利用が高い。中年単身層、高年夫婦の二人暮らし、また子どもがいる夫婦では中心部や副都心以外の市内エリア、多くは身近な生活圏での活動が多い。ただ、高年単身層で横浜中心部の利用が多いことにも留意しておきたい。

●学習・能力開発活動の内容 少子高齢社会を迎え、生涯を通じて生きがいやキャリアアップを追求したり、また、ITをはじめとする新たな技術革新への対応が求められる時代となっている。社会環境変化が激しく、生活者の生涯にわたる自己実現への欲求が高まる今日、市民においても学習や能力開発など、広い意味での生涯学習活動が盛んになっている。

こうした活動の中で最も活発なのがパソコンやインターネットの学習で、約2割の市民が行っている。これは男性で年代を問わず盛んで、女性では若年層が活発である。

また、音楽・美術、華道、舞踊などの芸術・芸能・趣味活動も盛んで、約17%の市民が参加している。この分野は逆に、女性の活動が活発で、男性では高年層で参加率が高い。

英会話などの語学も約1割の市民が行

っており、特に若年層で盛んである。次いで経営・経理などの職業関連や資格取得のための学習、歴史や文学などの教養、料理・裁縫などの家事でそれぞれの市民の参加がある。職業関連の学習は中年までの男性層全般で行われており、資格のための学習は若年層、歴史などの教養は高年男性で盛んである。

また、親子の別居や、親類、近隣社会の人づきあいが希薄になってきていることなどで若い親が子育てについて知る機会が問題となっているが、中学生までの子どもがいる女性で育児・教育関係の学習が10数%に及んでいることが注目される。

●学習・能力開発を行う方法・場所 これらの活動は、どの分野も自宅での独習が非常に多い。合わせて、芸ごとではグループやサークルへの参加、カルチャーセンターや個人レッスンの利用が多い。歴史など教養では地区センター、図書館、美術館、語学ではスクールの利用、資格のための学習では通信教育、専門学校の利用が多くを占める。

こうした学習活動は、全参加者のほぼ半数が自宅で行っているが、外出して行う場合、自宅の近所や横浜市中心部、副都心、東京都内など、行っている場所は比較的分散している。

「横浜に住む」ということ 22